

第1回 横浜市新たな劇場整備検討委員会 基本計画検討部会	
日時	令和3年4月19日(月)14:00~16:00
開催場所	神奈川県中小企業センター14階多目的ホール
出席者 (敬称略) (7名)	本杉 省三委員(劇場計画研究者(日本大学 名誉教授)) 明石 達生委員(東京都市大学 都市生活学部 教授) 倉田 直道委員(工学院大学 名誉教授) 坂口 大洋委員(仙台高等専門学校 総合工学科 教授) 立川 好治委員(有限会社ニケステージワークス 代表取締役) 水野谷 良子委員(株式会社ヴォートル 代表取締役) 山中 隆委員(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 館長)
欠席者 (敬称略) (0名)	なし
開催形態	公開(傍聴1名/報道13社)
議題	(1)新たな劇場の施設概要の検討 (2)その他
資料	資料 : 令和3年度第1回横浜市新たな劇場整備検討委員会 基本計画検討部会資料 参考1 : 提言(令和2年12月24日) 参考2 : 令和2年度第3回横浜市新たな劇場整備検討委員会 とりまとめ資料抜粋

議事内容

- 1 新たな劇場の施設概要の検討
- 2 その他

**【事務局】**

- ・開会に先立ちまして、事務局であります芸術創造本部室長の尾仲より一言ご挨拶申し上げます。

**【事務局】**

- ・ただいまご紹介いただきました横浜市の芸術創造本部室長の尾仲でございます。本日はご多忙の中、基本計画検討部会ということで、各委員の皆様にはご出席いただき、本当にありがとうございます。私からこれまでの経過、今後の進め方について、ご確認、ご説明をさせていただきます。
- ・昨年12月に新たな劇場整備検討委員会におきまして、様々な議論を経て提言を取りまとめ、林市長に提出していただきました。提言のポイントといたしましては、事業費、運営費、検討のあり方、計画のあり方といった点です。
- ・一方、基本計画については、事業費等まではたどり着いた訳ですが、内容にはまだまだ課題が残っておりまして、引き続き令和3年度も検討を進めていきたいということで、予算は繰越しし、年度の早い時期からスタートさせていただきました。
- ・今年度は提言というより、各委員の皆様からご指導あるいはご助言をいただきながら、基本計画をまとめていきたいと思っております。そういう意味ではかなり細かい点もあるかと思いますが、本杉部会長ほか各委員の皆様につきましては、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

**【事務局】**

- ・これより、次第に基づき部会を進めさせていただきます。本部会において、新たに2名の方に委員をお引受けいただいておりますのでご紹介させていただきます。
- ・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール館長、公益財団法人びわ湖芸術文化財団理事長、山中隆様でございます。

**【山中委員】**

- ・よろしく願いいたします。

**【事務局】**

- ・なお、山中様は現在、横浜市新たな劇場整備検討委員会管理運営検討部会の委員も務められております。
- ・続きまして、仙台高等専門学校総合工学科教授、坂口大洋様でございます。

**【坂口委員】**

- ・よろしく願いいたします。

**【事務局】**

- ・どうぞよろしくお願いいたします。

**【本杉部会長】**

- ・それでは、議題に従って進めていきたいと思えます。先程、尾仲室長のご挨拶にもありましたが、今年度の基本計画検討部会は、現在市が検討している基本計画の内容について、委員の皆様から幅広い知見に基づいた指導、助言をいただきたいということですので、よろしくお願いいたします。
- ・ご発言いただける場合は挙手をしていただきまして、手元にありますマイクを使ってご発言いただきますようお願いいたします。なお、ご発言の後、マイクの電源を必ずオフにしてくださいようお願い申し上げます。
- ・それでは、資料に沿って、まず事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】**

(資料の説明 14 ページまで)

- ・次が、びわ湖ホール様の取組となってございまして、山中委員からもご紹介いただけますでしょうか。

**【山中委員】**

- ・これは直接雇用している声楽アンサンブルという 16 名のオペラ歌手がいるのですが、その卒業生による親子連れの皆様を対象とした特別コンサートを開いて、同時にオンラインで配信するという取組をやったものです

**【事務局】**

- ・ありがとうございます。デジタル化の取組ということで事例をご紹介させていただきました。

(資料の説明 15 ページから)

**【本杉部会長】**

- ・ありがとうございました。大きな項目としては、2 番、3 番が 1 つのまとまりで、舞台機構、バックヤードです。それから、2 つ目が交通課題への取組ということ。5、6 が、内容は違いますが、感染症対策とデジタル化の取組ということで、3 つないし 4 つ位の大きな項目でご発言いただければと思います。

【明石委員】

- ・バックヤードや交通施設から入ってもよろしいですか。

【本杉部会長】

- ・どちらからでも構いません。

【明石委員】

- ・前の提言という段階から、基本計画の中で事務局の検討に助言をするところに入って、それで一歩進んだと思いますが、設計まで行ってはいけないということだと思うので、丁度中間の加減の良いところで、設計に向けての要求条件や制約条件を整理するのだろうと思いつながら、気が付いた点を申し上げたいと思います。
- ・1つは、バックヤードと交通施設もバスが出てくるので、お話をしたいと思うのですが、バックヤードに制約条件が多い気がします。40 フィートコンテナを入れるかどうかというお話がありましたが、40 フィートはそれだけで10メートルです。それを運ぶコンテナの車というのが、普通は道交法で12メートルが限界ですが、16メートル位あるものでないと難しいかもしれない。それは本格的な港を持つ横浜ならではのことですし、みなとみらいの地区には港から臨港幹線が通じていて、そのスケールのものに一応耐えられる基盤はなっていると思うのですが、裏側の街路から入ろうとすると、それなりに制約があって、幅員との関係があると思います。
- ・バスも同じなのですが、最小回転半径が大体、大型バスでも9メートル近いはずで、つまり6メートルの道路の交差点では曲がれないので、結構整理しなければならない。どこからどう入って、どう曲がって、その置き場所に行くのか。また、2台か3台待機するとすると、それはどこでどう待機するか。表ではなくて裏からですから、裏側はお隣の敷地、Kアリーナの敷地がありますので、単純に数字だけ並べればできるという程、簡単ではない。
- ・でも、考えてみると、海外の方々が40フィートコンテナで来られるとすると、ここにいきなり乗りつけた方が良く、荷物を降ろして国内の別なところへ行くとすると、今度は荷物を搬入するとき、11トンのトラックなど一回り小さいものにして行って、場合によっては、帰りも横浜港だとすると、最初の公演と最後の公演をこの劇場でやるのが考えられる。そうすると40フィートコンテナが入るようにしたいですが、その位のスケールになると大きな敷地のつもりでいながら、中々、大変なところがあります。この段階では図面に落とした検討が必要だと思うのですが、公表すると独り歩きをしてしまうので、加減が難しいところですが、事務局の皆様は、ある程度図面を描く位の形の想定をした方が良くと思います。

- ・もう一つ、バックヤードのことで言うと、舞台面と揃えると言いました。舞台面の高さによっては若干かもしれませんが、上らなければいけない場合があります。人工地盤を張って、そこで下ろそうとするとそれなりに、超大型のトラックが上るといのはスケールが必要ですから、立体というか断面も考慮に入れて検討しておかないと、思わぬ落とし穴となる場合があります。
- ・次にバスですが、観光バスで沢山乗り付けようとする、それなりにスペースが要るし、回転半径もありますし、止めておく場所をどこにするかということになる。場合によってはこの敷地内ではなくて、みなとみらいは広いですし、バスの乗降というのは限られた時間なので、降りたり乗ったりするときだけバスがいて、他のところにいるなど、場合によっては隣のKアリーナとも共用で使って、タイムシェアできるようにした方がお互いの協力関係になると思います。
- ・そしてもう一つ大事なことなのですが、この劇場は裏口から入って裏口から出る場所ではないと思います。非日常的な空間でバスから降りた後に、胸を段々高鳴らせていきながら舞台のところへ入っていくとすると、止めて入れれば良いのではなくて、そこからどう歩かせていくかも必要になるので、簡単ではないと思います。そういうことについて、この先は少し詰めながら条件を課していく必要があると思います。

#### 【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。

#### 【山中委員】

- ・今、明石委員が仰ったことは非常に素晴らしい話です。びわ湖ホールの実態としては、まずバックヤードについて言えば、海外から直接びわ湖ホールに来られる。その場合、40フィートコンテナでそのまま乗り付けられる。ただ、残念ながらハイキューブというのに対応してなくて、3.8メートルを超えるハイキューブのコンテナは、入口で止めて、そこから工夫しながら入れるという一苦勞があります。多分、今度つくられるときは3.8メートルで止めることはないと思いますので、そこだけご注意願いたいなと思います。
- ・せっかく横浜港の傍につくられるので、海外から乗り入れられるというのは重要だと思うので、そうすれば日本でやる時は、初演は必ずこの横浜の劇場でやりたい、最後の千秋楽は横浜でやりたいなど、ニーズが出てくると思いますので、是非そうして欲しいと思います。
- ・びわ湖ホールの11トントラック、今2台と書いてありますが、実は3台いけて、ただ、3台止めると3台目は入口のシャッターが閉まらない状況になるので、多分それで2台と言ったのだと思います。3台あると回転率がだいぶ違うので、3台位は必要ではないかと思っています。

- ・それから、先程バスの話が出ましたが、びわ湖ホールは3台バスが駐められ、県内の小学生を入れるときは、多くの台数のバスが来ますから、次々そこで降ろして、他の待機場所で待機させるという方法を取っております。駐車場で降りて、やはり胸を高鳴らすというのは必要ですから、正面玄関から入ってくるというルートで子供達を迎える工夫はしております。

【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。
- ・2プラス1台の1台というのは、待機しているのですか。

【山中委員】

- ・中に入るのですが、3台目だけ浅くシャッターが降りないです。場所が取れなかったのだと思います。

【本杉部会長】

- ・分かりました。

【立川委員】

- ・搬入口、バックヤードの件で明石委員、山中委員から是非40フィートで搬入、搬出ができるようにと。現場で実際に搬入、搬出の作業をしておりますと、これは本当に必要なことだと思います。駄目であれば、例えば横浜のどこかのヤードで一旦コンテナから出して積み替える。これの時間的なロス、コストというのは馬鹿にならないです。海外の大きな劇場との交流を、劇場の柱の大きなものとして考えるのであれば、これは欠かせないと思います。
- ・明石委員が仰ったバスとの関係も含めて言いますと、実際に40フィートのコンテナを搬入したり搬出するときに、お客様のバスが来るというケースはほとんどないです。時間的にずれています。そう考えると、どのようにバックヤードの面積、場所を取り合うかということがありますが、それはある程度時間的にシェアできるという可能性もあると思います。
- ・先程のびわ湖ホールの3台目はどうしてというのは、私は何度もそこで搬入、搬出いたしました。大きなメインのところは2台普通に楽に並ぶのですが、もう一つは、少しプラットフォームの形が浅くなっています。4トン車でしたら無理なく着くのですが、大型車だと頭が少しはみ出る。それでも実際に運用するときには、そこにもう一台着けたりすることがあるので、シャッターが閉まるか閉まらないかという、要するに公演時にどうかということもありますが、出入りするときはいずれにせよシャッターは開けるので、そのことは大きな問題にはならないと思います。

- ・あと、40 フィートのハイキューブが入らないという、あれは道路のアクセスから搬入口のところの勾配、建物と道路の境目との間の勾配があまり良くなって、入れ難いということがありますが、でも 40 フィートが入るとするのは非常に大きな条件だと思います。最小小回り半径みたいな話が出ましたが、これはどこの道路からどう回ってきて、どういう向きで入れるかというのが、実際の面積はあるが、曲がり角が上手くいかなくて入れ難いことはままあるので、その辺は図面を描くときとか、敷地計画のときに検討する必要があります。
- ・それと、舞台と床機構ですが、主要な劇場は、均等か不均等かは別として、4面舞台というのが大きな流れになっているということで、これは確かにそのとおりです。ただし、演出的にそれを使われているケースが少ないという記述がありましたが、例えば、海外の劇場からオペラやバレエの演目を招聘するときに、当然、日本のどこの劇場で上演するかをあらかじめ考えながらプログラムを決めます。迫り機構やスライド機構を使った演出を日本のツアーの中で考えて、これが実現できるかどうかというのをまず考える。そのような劇場は現状ではそれ程多くはない。それと、そうではない条件の劇場でも公演したいという希望があると、プログラムの選択のときに、そのような演出のあるものは外していくことがあります。ですから、比較的そういうものが使われることはないですが、実際はそういう機構があれば、もっとプログラムの選択の幅が広がると思います。
- ・主舞台と、その周辺と、バックヤードというのは必ず同一平面上でつながっていなければいけないので、その辺の場所の取り合いとか、全体の劇場の機能と仕様をどう使っていか含めて検討すべきです。単純に4面が良い、5面が良いとか、多過ぎる、広過ぎるということではなく、この劇場をどのように運営して、どのように使っていかという視点から、これだけのものが必要、こういう機能、面積のものが必要だということに出てくるべきものだと思います。

#### 【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。

#### 【倉田委員】

- ・交通のことが話題になっているので、私も少し一言コメントさせていただければと思います。基本的には明石委員の仰っていたことに私も賛成です。ただ、もう一つ大事な視点は、みなとみらいのエリアに、これからアリーナもできるし、劇場もできる。もう既に見本市会場もあつたりと、大規模集客施設が沢山あり、これからも増える。港があつてコンテナをそのまま持ってこられるというのは、横浜で集客施設を持つ1つのアドバンテージだと思うので、それを生かす意味でも、みなとみらい全体でロジスティックを含めた交通の問題を考えて、それを1つのシステムとして考えるのが大事ではないかと思います。

- ・特に今回、隣接してアリーナができるので、アリーナにコンテナで運び込むことがあるかどうかは分かりませんが、いずれにしても大規模集客施設で色々なイベントが行われることから、それぞれが同様の施設を持つのも無駄が多いので、シェアする考え方も凄く大事だと思います。先程から出ているバスの話も同じだと思います。駐車場もそうですが、全て敷地の中で必要なものを満足させるという考え方ではなく、みなとみらいのエリアの中で効率的に使用できるという考え方が、大事だと思います。
- ・私自身、これまで幾つかの集客施設の計画に関わっています。いつも問題になるのは駐車場の問題だったりするのですが、基本的に駐車場というのは集客施設が使われているときは最大限の需要がある訳ですが、使われていないときというのは全然使われない状態で放置されるので、そういう意味では、そういう考え方は非常に大事だと思います。
- ・今までの話は、コンテナやバックヤード、必要なものを運び込むロジスティクスでしたが、駐車場についても同じことが言えます。もう一つ大事な視点は、今、交通の世界では移動革命という話が進行中です。色々な車の技術が開発されたりすることで、移動の仕方が変わってくるだろうと言われていています。結果的に自家用車の利用がどんどん減っていく。私は今、銀座のまちづくりをお手伝いしています。銀座における附置義務駐車場のルールを一度見直して、大規模施設にまとめて駐車場を確保する集約駐車場という考え方を導入し、一時期はそれが上手く機能していたのですが、最近は駐車場ががらがらになっています。それで今度は運営コストが凄く高くなってしまっていて、正直困っているという状況があります。
- ・恐らくこれから世の中がそのように変わっていくと思いますし、移動手段が多様化して、車にしてもシェアという概念が出てきて、一人一人が自分の車を運転するという状況でもなくなってくるので、そういう意味で交通に対しては、みなとみらいだけではなく、場合によっては横浜全体の交通のあり方を考える中で、公共交通手段とどのように組み合わせやっていくかも含めて、考えていく必要があります。今回の施設が実際にできるのはかなり先になる訳ですから、その時点で交通環境がどうなっているかも捉えて、考えていかなければならない。できた時点で駐車場を作り過ぎたということにもなりかねないので、そういう動きも踏まえて考えていく必要があるのではないかと思います。

**【本杉部会長】**

- ・ありがとうございます。



## 【坂口委員】

- 委員の方々のご意見を伺って、例えば先程、立川委員が仰っていた搬入の話ですと、びわ湖ホールも、計画上は多分2台で、3台目がいけるといのは、最低限ここまでやれるというところと、グレーゾーンを計画上に担保することが非常に大事だということを仰ったのだと思います。つまり、最小限のスペックを決める部分と、100回に1回あるかもしれないみたいな、そういったところをゼロではなくてグレーゾーンで対応できるような、先程、倉田委員が仰ったシェアも同じだと思うのですが、そういったところを、これから実際に計画を詰めていく中で切り分けながら決めていくことが重要ではないかと思いました。
- 舞台機構のところについて1つコメントさせていただきますと、先程、多面舞台かどうかというお話があったと思うのですが、最近、不均等が多い。これは2000年前後、日本は新国立劇場も、兵庫もオペラ公演の回数が少なくなっていることもあると思うのですが、もう一方で主舞台の性能が非常に上がってきています。つまり、元々、舞台転換をするために必要だった多面舞台が、舞台機構の発展もありますし、運営上のサポートもあるので、従来のように複数の、少なくとも4面舞台がないと公演ができないという状況が変わってきているので、今回、横浜で劇場を考えると、主舞台の性能をどうするかが、一番重要だと思います。
- それは舞台面積もそうですし、例えば、側舞台だけでなく奥舞台があった場合というのは、恐らくこれが有効な場合は可動式の音響反射板が付くことになると思うのですが、その収納部を完全に空けてがらんだりの大きな空間として使えるか、例えばバトンや音響反射板があり、丸々その1面しか使えない形になるかによってかなり汎用性も変わってきます。ひいて言うと、バレエやオペラだけの公演だけではなく、貸館をしたり、少し違った利用の仕方をすると変わってくるので、主舞台をどうするかということがあると思います。
- その上で、今日4つ議題があるのですが、実は非常に全部関連をしていて、例えば最後のコロナ感染の話で言っても、これは劇場としては転換期で、これまで舞台と客席を一体で使うことは結構あったのですが、感染症対策的に考えるとどこかでセパレートしなければいけないなど。交通の問題に関しても、数千人の人が一気に集まるとなると、もう一方で避難をどうするかということもありますし、新高島駅周辺の、オフィスだけではなく周辺の住宅地から考えると、本当に1階を全部駐車場だけ造って良いのかという議論もあります。ですから、4つの議題にせよ、何かしら関連づけて決めていかなければいけないときに、計画上、最小限必要なスペックと、グレーゾーンの切り分けみたいなことや、先程、倉田委員がおっしゃった附置義務、駐車の話に関しても、かなり解釈上はグレーで考えていった方が良いというところがあるので、その辺は少し全体の議論にも関係があると思いました。

- ・舞台機構の観点で言うと、主舞台の話に戻りますが、今、感染対策としてヨーロッパのオーケストラもディスタンスを取って、従来の 80 人編成、100 人編成規模の、百数十平米で収まったところが中々乗らないみたいな話も出てきたりする。その辺の考え方は、横浜のこの劇場の計画は、管理運営計画の検討と建築の検討を同時並行で行っている非常に素晴らしい部分があるので、実際の運営のスペックというか目標やあり方みたいなものから舞台の大きさが決まると思いました。
- ・最後、先程の移動革命の話も、計画がスタートしてできていくまで結構時間が掛かると思いますが、舞台芸術も日進月歩なところがあり、分かりやすい例は舞台照明ですが、それ以外でも電源の取り方など様々なところが発展しています。劇場の設備の仕様、スペックが変わっていける計画というか、例えば、東京の世田谷パブリックシアターを計画するときは、技術運営部会をつくって、メーカーの人がコミットし、かなりその当時の最新の状況をアップデートしていた。目標、理念や使い方みたいなものは設定しつつも、そこに必要な舞台設備や技術がアップデートしていけるような計画のプロセスがまとわることによって、最終的にできたときのイニシャルの状態が、少なくともその当時における良いシステムになりました。
- ・90 年代以降、日本は劇場を沢山つくってきましたが、建築的な知見だけではなく、計画の作り方のノウハウもあると思います。それを横浜の計画の中にも少し盛り込めると良いと思います。
- ・搬入の話で言いますと、トラックをどうするかということもあると思うのですが、舞台レベルをフラットで考えることは非常に重要なところだと思います。1 階の使い方の断面的な構成。それは搬入部であると同時に、恐らく 2,500 席位の客席になると多層のバルコニー型で 4 層位の客席層になりますが、断面的な形状と舞台レベルの考え方は関係づけて検討すべきだと思います。

#### 【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。
- ・私からも少しお話しさせていただきます。舞台機構とバックヤードのことが多いですが、その中で気になったことが幾つかあるので、ページの順に沿ってお話したいと思います。
- ・3 ページ目の主舞台と均等、不均等型という言い方をしていますが、主舞台という定義が日本でははっきりしていなくて、私はフライタワーの投影面積、つまり演技エリアと、その両脇ないし後ろ側にある袖幕等を含めた部分までを主舞台エリアだと思いますが、演技エリアのみを主舞台という言い方をしている人もいて、そういう見方に基づいて今の 3 ページ目の記述ができていると思います。

- ・主舞台が他の舞台と違うのは、袖幕があったり、出演者が通行、待機するスペースがあります。バレエの場合ですとジャンプして出ていったときに必要な場所です。それが側舞台や後ろの舞台には一般的に必要なないので、少し狭くなるというのは自然な計画です。ですから、あまりこの言葉に捉われない方が良いのではないかと。先程、立川委員も仰っていましたが、それは大事なことだと思います。
- ・もう一点、5ページで気になったのが、主舞台にはバレエ床が常設されていることが望ましいという記述です。バレエを主体にしている劇場なので、バレエ床を大切にしようという考え方は大変良いと思います。ただし、主舞台にバレエ床が常設されるとなると、バレエ床が常にそこにあることになってしまいます。下の絵ではそういう説明ではなくて、バレエ床がどこかにあって、それを主舞台に持ってくればバレエ床として相応しい上演空間ができるというのが下の説明だと思います。従ってバレエ床を主舞台に常設するというのは、その下の説明とは、ずれている気がします。専用のバレエ床を持っていて、それをバレエ公演のときには使いますという言い方の方が適切だと思います。
- ・下の図はこの表現で良いと思うのですが、固定した奥ないし側舞台の下にワゴンのようなバレエの専用床があるという描き方になっていますが、逆ではないかという気がします。バレエ床が上に乗っかっていて、それを出してきて降ろす方がコスト的には安上がりになるので、それも含めて考えた方が良くと思います。
- ・オーケストラピットの記述でとても良いと思うのは、オーケストラの音響効果を発揮できるピットとするというもの。今日、委員の方からあまり発言がありませんでしたが、オーケストラピットはとても重要な空間で、特にオペラ、バレエにとっては生の音がここから出ていきますので、単なるオーケストラが演奏する場所ではなくて、いかに音がお客様に適切に届くかがとても重要になってきます。その音響効果を考えて計画するというのは必要なことだと思います。一般的に、音響設計するときにも舞台から音が出るという前提でシミュレーションするのですが、オーケストラピットから音が出るというシミュレーションはあまりしません。そういったことも含めて検討することは重要だと思います。指揮者は自分の音をつくりたいためにオーケストラピットの床レベルを上げたり下げたり調整します。迫りが上下するのは当然必要なことですが、手すりもとても重要だと思います。ですから、手すりの音響効果も当然考えておかないといけないことです。それらも後々考えていって欲しいと思います。
- ・バックヤードについて、8ページで言いますと、同時搬入できるトラックの搬入口における停車スペースと言いますか、待っているスペースというのはとても大事だと思います。待機場所をどう確保するかについてもある程度考えておいて、記述しておいた方が良くと思います。先程、40フィートの話が出ていましたが、待機する場所を、搬入、駐車、バス路等と併せて計画していくことがとても大事だと思います。

- ・搬入が上に行く場合もあるという明石委員のお話がありました。実際、ヨーロッパでも、ロッテルダム劇場で2階のレベルに大きなトラックが上がって行って、そこで搬入するという例もあります。同じレベルに舞台レベルと搬入レベルが揃っていた方が良いのが一般的だと思いますが、車なら上がっていきるので、それが駄目という訳ではないと思います。レベルが違うという例も、計画の考え方によってはあると思います。
- ・バックヤードと舞台機構に関して、今のところ私が気付いたのは以上ですが、そのほかで何かございますでしょうか。

#### 【山中委員】

- ・今、本杉部会長からオーケストラピットの話が出たので、オーケストラピットについて、びわ湖ホールはワーグナーをやるには狭いです。コロナのこともあってワーグナーをやるのにピットには入れられないので、今回は演奏会形式にしまして、来年の3月と、再来年の3月も演奏会形式でやることに決めています。オーケストラピットが吹き溜まりみたいな感じになっていて暑くて、恐らく換気も悪いので、これから設計される時は是非オーケストラピットの換気のことと考えていただきたいと思います。劇場の客席の換気基準は非常に高いものがありますし、検温して、手指も消毒してもらって、マスクを着けてもらっている限りは、お客様への感染というのは全然心配していません。ただ、アーティストやスタッフについては練習期間も長いですし、凄く心配してまして、楽屋や練習室は、着替えや食事をすることもあるので、観客の心配よりも、楽屋やオーケストラピットの換気、感染対策のことを考えていただくのが重要ではないかと思っています。

#### 【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。
- ・感染症対策の問題で私もそれを言おうと思っていたのですが、オーケストラピットの換気というのはとても重要。私は専門家ではないので詳しくは分かりませんが、オーケストラピットは下がっているので、舞台から空気が流れが来ると思っています。今回は専門家の方が2人いらっしゃるなので、そのシミュレーションを是非していただけたらと思います。舞台からの空気がオーケストラピットに行くのだとすれば、どうやって換気するのか、流れをどうやって溜まらないようにするのかという工夫は、設計のときには考えなければなりませんが、事前に計画段階で、こういう点に注意しましょうということを調べておく、知っておくことは重要ではないかと思っています。

## 【水野谷委員】

- ・今、感染症対策の話が出ましたが、私からはお客様側の現場の現状について少しお話ししたいと思います。接触面の消毒、お喋りなどお客様への注意事項の呼びかけ、マスクをきちんと着用してくださいということは、全ての現場で行っております。マスクをしての呼びかけは聞き取り難いので、ハンズフリーマイクを使用しているところもあります。掲示もしているのですが、効果の実感はあまりない印象ですので、両面でやっつけよう。ところが今度はマスクによる呼びかけで我々スタッフがうるさいということで、お客様同士のお喋りの声の方がより大きくなっているという指摘も上がっています。それから、もぎり、チケットを切るという作業は一切していません。プログラムの配布もせず、接触を極力回避しています。時差退場のアナウンスによる規制も行っております。
- ・こうした中で実施している公演ですが、先程山中委員からもありましたが、観客サイドから感染者は出ていません。お客様側で感染者が出て問題になることはなく、一方で、出演者側、裏方スタッフからは、残念ながら出ています。長時間滞在していると、やり取り、会話の制限には限界がありますので、これは致し方がないと認識されているとは思いますが。そこで1つ問題になったのが、我々表方スタッフの入退館の動線が出演者の動線と同じ通路を使っている場合、感染者が出たときに濃厚接触者の線引きが難しくなったケースはありました。動線エリアが完全に分かれていますれば、全く問題なし、解決というか、答えは早かったのですが、それをどう考えるかがありますので、この中に盛り込まれておりましたが、そこは是非エリア分けをしていただくというのが重要だと、この度のコロナで感じました。
- ・トイレについてです。別紙3の教授のコメントにも記載がありましたが、ワンウェイ方式とありまして、一方通行で入り口と出口が分かれる施設は非常に運用がしやすく、お客様も安心感があつたように見えました。その入り口、出口のところでもう一つ。終演後、お客様が一挙に出られる訳ですが、この一挙に出るときに密をどうしてもつくってしまう。これを回避するためには、出口に使えるドアの数が多いと非常に良かった。通常は1つのゲートで入っていただいて、帰りも1つで出していたという劇場もあるのですが、この度のコロナで、終演時はあらゆる扉から出すと運用を変えていますので、こういったことができる就非常にお客様にとってもプラスの印象を与えると思えました。
- ・それから、デジタル化の取組といったところ。ここについては、実際にお客様をお入れして、かつライブ配信をしている公演が増えています。もう、そういうやり方ができると主催者も気付いてきている気がします。来場のお客様を迎え入れる一方、遠方にいらっしゃる方達もライブ配信だったら見てもらえるといったメリットで、現場では声があつて、両方やりましょうという主催者が増えている気がします。一方で、ホール側ではそういった設備が十分ではないです。映像、音響に対応しているホールが少ないので、これからは設備が整っているホールは使い易いという評価を受けると思います。

- ・今は、その都度、主催者が用意した委託業者が入ってきて、不慣れな中で出来る限りのことをやるという状況ですから、より精度を上げてそういった配信ができるようになるはずだという印象は持っています。

【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。
- ・出演者とスタッフの動線を分けた方が良いという話は、入り口を分けるという意味ですか。

【水野谷委員】

- ・入り口を分けることになります。時間はラップしていないので大丈夫という考えもあるのですが、出演者と動線が完全に分かれていますれば、表方は濃厚接触者にならないという判断がありました。

【本杉部会長】

- ・色々なスタッフがいると思いますが、常時劇場の中にいる内部のスタッフの方っていますよね。外部から入ってくるスタッフの方もいて、出演者でも色々な出演者のタイプがあります。それらを全部分けていくのはなかなか大変なことだと思いますが、表方だけを分けるというのはそんなに難しくないと思います。

【水野谷委員】

- ・そうですね、表方だけを分けるという。

【本杉部会長】

- ・表方のスタッフだけを分けることは、表側だけの人にとっては良いですが、その他の人達はどうしたら良いでしょうか。

【水野谷委員】

- ・その他の人達は、当然そうですね、表方だけは仰るとおり良いですが、他の人達は別の対策が必要になります。

【本杉部会長】

- ・その場合、表側の人達はあるエリアから向こうに行けないという制限が掛かってきますよね。

【水野谷委員】

- ・そうです。

【本杉部会長】

- ・分かりました。

【山中委員】

- ・今の話で言えば、びわ湖ホールも表方のスタッフは楽屋へは絶対に行かせない運用をしています。楽屋に入る職員は決めています。

【本杉部会長】

- ・常時劇場で働いている人達はどうしていらっしゃるのでしょうか。

【山中委員】

- ・楽屋へ行く者と、楽屋へは行かない職員とを分けています。

【倉田委員】

- ・感染症対策について。現在劇場に関わっておられる当事者とは少し違う立場でお話をさせていただければと思います。今はコロナ渦であって、非常時においてどうあるべきかを議論していると思います。一方で、劇場においては、コロナに感染しない、アフターコロナでも良いですが、そういう状況もあります。そのときに劇場の使い勝手がどうなるのか。
- ・特に劇場というのは、鑑賞する場でもありますが、交流の場でもあります。そうしたときには人が接触することを積極的に進めることも必要になってきます。コロナ禍においては目の前のことをどう解決するかでみんな汲々とせざるを得ないと思います。一方で、そうではない状況もあるので、バランスと言ったら変ですが、解決を全部ハードに求めてしまうと、逆に平常時にももの凄く使い難い施設になってしまう可能性もあります。
- ・そういう意味で、ハードで解決・対応できるものと、運営で対応できることは少し区別しておく必要があります。それと同時に、元々持っている本来の劇場の機能が損なわれない、特に平常時にはそういう場を提供していかなければならないと思いますし、その障害になるようなものを恒常的に持ってしまつたらまずいとも思うので、その辺を設計の段階でかなり細かく検討する必要がある気がしました。

- もう一つは、細かい話になりますが、接触感染を避けるために最近是非接触でドアの開閉をするものも開発、導入される傾向にあると思います。それは好ましいことではありますが、一方で、例えば別の災害、地震や、特に停電があったときにはそういうものが一切機能しなくなってしまうこともあるので、マニュアルでも開閉ができるなど、操作ができるようにしておかないと、コロナ禍のときには良いが、そうでないときに機能しなくなってしまうことがあるので、これはハード整備の中で考えれば良いことですが、そんなことがあると思いました。
- デジタルの話も出てきたので、鑑賞する側、楽しむ側の一つの期待ということで申し上げますと、恐らくこのデジタル化というのは大きく分けると2種類あって、1つは演出する側の可能性というのがあるのではないかと。というのは、私自身も芝居やコンサートが好きで出掛けることがあるのですが、やはりデジタルアートと組み合わせた舞台は増えていて、結構面白い。クラシックバレエというのはかなり古典的で伝統的な芸術ですので、そういった伝統的な演目では中々難しいかもしれませんが、新しい実験的なところだと当然そういったものも可能性が出てくると思っているので、恐らくデジタル化を考えたときには、演出する側と、鑑賞する側と、少し分けて考えても良いかなと思います。
- 鑑賞する側で言うと、やはり単純に舞台を配信することが1つありますが、例えば他の例で言うと、野球はカメラを色々なところに設けて、色々なところから鑑賞できる。手元で画像を選択して楽しむことも可能になってきています。それがクラシックバレエに相応しいかどうかは議論があるところだと思いますが、単純に楽しむ側で言えば、あるときはクローズアップして足元だけを見たい、場合によっては真上から見たいということもあり得ます。今は想定されていないことかもしれないですが、そういう楽しみ方もあったりするので、そういう意味でのデジタル化というのを両方のサイドから考えても良い気がしています。
- ただ、先程も話がありましたが、デジタル技術というのはもの凄く日進月歩なので、固定的な設備として完全にフィックスしてしまうと変更もできないし、ある程度時間が経つと陳腐化してしまって、その投資自体も無駄になることもあると思うので、その辺はかなりフレキシブルにそういう可能性を許容できる造り方しておくことも含めて、デジタル化に関しては必要ではないかと感じています。

**【本杉部会長】**

- ありがとうございます。
- 先程、市から紹介していただいたビデオというかスライド、あれはコンサートホールの事例だと思いますが、色々なところから撮ったものがありました。そういうのが本当にこれから増々利用されていくと思います。
- そのほか、ございますか。



## 【立川委員】

- ・少し戻ってしまいますが、オーケストラピットのことです。オーケストラピットの換気というのは、どこの劇場もほとんど今のところは多分ない、またはその周辺に換気設備があるところは多分ないと思います。実際に、演奏面を沈めたときにオーケストラピットの中でどの程度空気が動くのかを、スモークマシンみたいなものを使って東京文化会館でやってみたことがあります。もちろん客席にお客様が入っているとき、それから照明がついているときで温度勾配が変われば変わってしまうとは思いますが、これはほとんどあまり動かないです。
- ・どのようにしてその空気を、少なくとも客席の方に出さずにバックヤード側の方に流すことができるかと、仮設のファン、換気扇みたいなものを入れて動かすことができるのですが、これはオーケストラ側からファンノイズがするというクレームがつき、結局駄目でした。オーケストラピットの場合は、換気を考えるときに騒音問題が非常にシビアになると思うので、どのようにしたら音を出さずに空気の流れをつくることができるか、専門家の方に様々な知見をお出しただかなければいけないと思います。
- ・あともう一つ、先程、本杉部会長が仰ったバレエ床のことです。例えば、公演の相当数を通常のバレエ公演とすることが想定されていて、バレエ用の床の使用頻度が上がるから、それを比較的簡単に設置というか使えるようにする機構、これは非常に良いと思います。ただし、このバレエ床の性能というのはやはり問題になって、バレエダンサーの足の負担を軽くするためにある程度弾力性のある床を造ると、これは建物として、構造物として強度的に弱くなります。この辺の取り合いが非常に難しく、現実にバレエだからといって床だけでセットがないケースはあまりありません。最近の傾向では、バレエの場合もかなりの重量のセットが使用される。そのとき、バレエ床の弾力性と耐久性というものの考え方が、どこかで線引きしなければいけないですが、場合によっては専用の簡単に出せる床ではなくて、別のもう少し強度のある床に一部分だけ入れ替えようという形の可搬型のものを考える必要もあると思います。ヨーロッパのオペラハウスでバレエをやるときは、ほとんど人力で一枚一枚バレエ床のユニットを出してきて組んでいます。それが不要ない場合は撤去するというので、それなりに手間は掛かりますが、色々な対応が可能です。
- ・5ページに、通常時とバレエ使用時という2つがありまして、左側の通常時というのは普通はかなり厚めの、最近ですと針葉樹系の集成材を使うことが多いですが、これよりも確実に耐久性が劣る、場合によっては部分的に交換する必要があるみたいなことが必ず出てきます。この辺に対する考え方というか対処の仕方も、あらかじめ考えていく必要があると思います。

- ・デジタル化についても様々な意見があつて、どこも多分、明確なビジョンみたいなものは無く、試行錯誤をしながらやっていると思いますが、スタッフサイドの視点というか、1つだけお話ししておきたいことがあります。デジタル配信したものの収益をどう考えるかが1つ大きな問題。これから先、デジタルコンテンツがある程度大きなマーケットになっていくときに、出演者や公演団体はある程度、収益性のために課金システムみたいなものを使っていくことになると思いますが、そのときに出演者、ダンサーや、公演・コンテンツを作るのに携わった技術者に対してどのように収益を分配していくかという視点が、ほとんど、どこからも今のところ出てきていない。これは、そういうところまで考えっておかないと、多分大きな流れとしては上手くいかないのではないかと考えています。

#### 【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。
- ・バレエ床の問題は、立川委員からもお話があつたように、全面的に同じ仕様で、一枚板で造る仕様と、ピースに分かれたものを敷いていく方法と、2つが今のところ考えられると思います。そのことについては、今ここには書かれていないので、その両方で検討していた方が良いというお話だったと思います。

#### 【明石委員】

- ・オーケストラピットのことで、素人の思いつきなので、違うなら坂口委員に訂正していただいたり、あるいは事務局から専門の先生に聞いていただきたいと思うのですが、本杉部会長も仰つたように、オーケストラピットに冷気がたまるのは確かにそうだと思います。コンビニのアイスケースって全部上が開いていて、冷気が動かないでずっと冷えていますよね。階段教室で講義をするとき、冷房をつけると私が一番寒いんです。この中に、床下からの風を入れていくことによって解決していくということが書いてあつて、2,500席入れて同じスケールでやろうとすると、下から上に空気が流れていく必要があると思います。読んだときに、音は大丈夫かどうかは気になっていたのですが、これは単純な思いつきですが、オーケストラピットを少し暖めると上に行くかなと。コンビニのアイスクリームが温まったら溶けるのと同じだと思つての発言です。

**【倉田委員】**

- ・コロナについてテレビで色々な専門家の話を聞いているのですが、最近、例えば飲食店で感染対策としてマスクをしているし、フィルムで被っているが、それでも罹ってしまったというケースがあって、何が一番の原因だったかという、そのときの専門家の話では換気だと言っていました。ということで、換気というのは大事という話でして、そういう意味では今回のホールも相当換気のコトは技術的なコトも含めて検討しておいた方が良くはないかと思えます。先程、お話があったように、どうしても換気の場合は音の問題や、ホールの他の性能にも影響することがある気がします。
- ・それと同時に、明石委員のお話を伺っていて、私共の大学の教員がコトブキと技術開発をして、一つ一つの椅子の中で空調ができる仕組みをつくっています。それは私共の大学でも実験的に教室に入れているのですが、部屋全体を温めたりするのではなくて、1人の座っている人のところだけで完結している仕組みです。これも研究途上のものだとは思いますが、そういう技術も出てきているので、オーケストラピットは意外とそういう一人一人のシートのところでは換気ができたり、あるいは空調ができるようになると快適になるのではないかという気がしました。

**【本杉部会長】**

- ・ありがとうございます。

**【山中委員】**

- ・オーケストラピットについて、オーケストラ団員からは、暑いという声の方が凄く多くて、恐らく空気が溜まっているのだろうと。とにかく淀んでいると思っています。

**【本杉部会長】**

- ・ありがとうございました。
- ・これまでの中で、市から何か説明しておきたいことがあれば、どうぞ。

**【事務局】**

- ・本当に貴重なご意見ありがとうございました。若干補足というか、今はこのように考えていますということ、順不同ではございますが。

- ・オーケストラピットの件については、感染症の先生方から、オーケストラピット、控え室、リハーサル室は中々難しいと伺っています。幕間など休憩のときに息を切らせて入ってきて、何となくホッとして、緊張がほぐれて、マスクも取りご飯も食べてということで。そしてそこは得てして狭い空間であるということで、それまでのコロナ対策に気を付けなければという思いが何となくそこで抜けてしまい、非常にその2つの場面が大切というか、真剣に考えなければいけないと。特に換気問題というのは非常に両先生からご指摘をいただいております、両先生から言われているのは、換気というのは空気を動かすことではなくて、外気をどうやって入れるかだと。窓を開けて入れるという発想もあるのですが、機械換気で外の空気を入れて、それで排気しないと駄目ですと言われました。それは、今の技術の進歩の中で、それぞれゾーニングをして、それぞれのゾーニングでどうやってできるのかをしっかりと詰めていくということとっております。特に、今日ご指摘いただいたオーケストラピットは非常に大切な要素だと思っております。
- ・あともう一つは、やはり各先生も触れられておりましたが、アフターコロナの段階において、分かりやすく言うとオーバースペックにならない、なるという表現が良いかどうか分かりませんが、その辺りをどう考えるのかについても、両先生も、そこはやはりお客様が基本的に昔のようにマスクをせずに喋る状況を想定した劇場計画を考えるのか、それとも、その時々でマスクをして、しっかりとそれぞれソフトの対策を打ちながらやっていくのかという、やはりこれからは後者でしょうと。やはりマスクがなくてずっとやっていける状況を想定する施設計画ではないということで、お客様もアーティストの方もやれる限りそれぞれの対策をやった上で、それを支えるハードであるという考え方で、私共も進めていければと思っております。
- ・2点目が、バスと交通の関係でございます。みなとみらいは広いようで狭く、狭いようで広いところがございます、実を言うとどこの施設もバス問題というのには悩んでおります。正直言うと、みなとみらいではバスを滞留する場所がない。つまりそれぞれがみんな乗ってどこか行ってくださいという形になっていて、今や横浜とみなとみらいには置く場所がないと。少なくともバスがやむを得ず来てしまうところと、ある程度の頻度で来るところというのにはやはり差はあるのだろうと。ある程度の頻度があるところはそれぞれがしっかりと、バスが待てる場所も考える必要があると思っております。そういう意味では、みなとみらいの今回の劇場を考えていく場所では、先程、40 フィートの議論などと全て共通するのですが、頻度をどう考えるのかということで、頻度がある程度あるのであれば積極的に施設計画に生かしていく。頻度がなくてもやらなければいけないのか、頻度がない場合、真横になればならないのか、若干離れた場所でも良いのかということもあってございまして、一つ一つで若干それぞれの違いがあると思っておりますので、そういった点もまた各委員のご指導をいただきながらこれからまとめていきたいと思っております。

- ・最後になりますが、舞台面数については確かに全体で束ねて考えるべきだというのは正にご指摘のとおりですが、やはり従来の舞台転換にしっかりと対応するために、舞台の面数も重要ですが、移動機構、床機構をどう考えるのかがかなり重要だと思っております、単に置場として4面要るのか、本当にそれを床機構として動かしているのかという捉え方というのは、かなり舞台のそもそもの考え方になると思っております、まだまだ我々も検討が至っていないところがありますので、引き続きまたご指導、ご助言をいただきながらまとめていければと思っております。  
若干補足をさせていただきました。

**【本杉部会長】**

- ・どうもありがとうございました。

**【坂口委員】**

- ・バックヤードのところでトラックの話があったのですが、是非プラットフォームの形状を調べておいていただけると、何台停めるかと同時に、バックから降ろせるかサイドから降ろせるかによって、搬入の仕方が相当変わってきますので、何台なのかと同時に、プラットフォームの形状も押さえてもらえると良いと思います。
- ・もう一点、最近、障害を持たれている方への合理的配慮というのが公文協も調査を始めているのですが、かなり動線の問題や客席の考え方に、今後5～6年経つてくると大きく変わってくる可能性があるのも、その点も今後の検討課題だと思いますが、入ってくると思いました。
- ・最後にオーケストラピットですが、私も解決策を持ってはいませんが、ひょっとすると発想を変えて、そもそもピットなのか前舞台なのかという議論がある気がして。つまり、壁があることによって空気が溜まってしまうのですが、客席の前面のところに壁が出ないというか、前舞台的に考えていくと、客席空調と一体で考えるということもあるかもしれないので、この辺は演奏もあると思うのですが、新しいことを考えるときに、そもそもピットなのか、前舞台なのかという議論はしても良いのではないかと思います。
- ・その関連で言うと、感染対策上オーケでも観客的にちょっと…、というのがあると思います。ただ、最近、シミュレーション精度が上がってきており、空気に関しても相当可視化出来るようになってきているので、そういったものを単なる計画サイドの検討だけでなく、ある意味説明責任と言いますか、この劇場は安心ですよと言うために出していくことによって、かなり心理的なバリアが減っていくところもあると思いますし、検討の精度も上がってくると思うので、そういったものが活用されると良いと思います。

**【本杉部会長】**

- ・ありがとうございました。

- ・取りまとめに入りたいと思いますが、その前に私から今後の進め方に関して市に確認したいことがございます。今回議論しています基本計画については、この先、基本設計にどう繋げていくのか、基本計画ではどこまで決めて、基本設計ではどこを決めていくのかという認識がとても大切だと思っています。今回の基本計画において基本設計を意識してどこまで決めておくのか、その考え方についてお伺いしたいと思います。また、基本計画の策定も含めて、市として確定的に守るべきスケジュールがあるのであれば、それについてもお示しいただければと思います。よろしくお願いいたします。

#### 【事務局】

- ・今回、基本計画という作業を進めさせていただいており、通常であればその後、基本設計という流れがございます。一般論で申し上げますと、基本計画の中では建築物のおおよその概要を決めていくということで、今回で申し上げれば舞台などの特殊なもの、どこの施設でもあるものではない特殊なものについてはしっかりとスペック等を固めていきたいです。増して交通の問題になりますと、やはりバスについてどういう形で、あるいは40フィートにするのか11トントラックにするのかも含めて、若干細かいところも含めて基本計画の中でやっていきたいと思っています。
- ・一方で、設計者の創造力やノウハウに多大な期待をしたい、例えばエントランスホールの造り方や、観客席の造り方については基本設計に委ねていくべきものと考えているところがございます。市では現段階では、いつまでにこうしたことをやらなければいけないといった確定的なスケジュールはございませんので、今まで基本計画、管理運営検討を進めてきた延長上として着実に進めていく流れを基本に考えております。

#### 【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。確定的なスケジュールはないが、着実に進めていきたいということだと理解いたしました。部会の今後の見通しは共有化していきたいと思っています。基本計画として検討すべき内容、課題は段々絞られてきていると思っていますが、上半期位まで、つまり夏以降位までに目途を立てることをイメージできると思いますが、そういうことでしょうか。

#### 【事務局】

- ・作業をやりながらにはなると思いますが、今、部会長からご提案をいただきました、そういった点で事務局もしっかりと作業を進めていきたいと思っています。

### 【本杉部会長】

- それでは、そうしたスケジュールをベースとして私達も認識し作業を進めていければと思います。市もそういったスケジュール感覚で進めていただければと思います。また、進めていく上でスケジュールが厳しいという状況が起きましたら、その時々でご報告をお願いしたいと思います。各委員の皆様も、まとめる作業になりますので、是非ご協力の程、よろしくお願いいたします。
- 今回の部会では、今後検討を進めていく上で大変重要なご指導、ご助言を各委員の皆様からいただくことになっていきますし、今日も時間いっぱいまで議論ができたと思います。一つ一つの確認はしていきませんが、今後に向けて私の方から3点程確認したいことがございます。
- 舞台の方は随分議論しましたが、1つ目は交通課題の取組についてです。より具体的なプランに繋げていくためには更なる検討が必要だと思っておりますので、この点についてより深めていただければと思います。
- 2つ目は感染症対策です。専門家の意見が何よりも重要だと思います。今日も2つのペーパーが用意されております。十分に見る時間がなかったですが、引き続き対策についてヒアリングを継続していただいて、取りまとめた内容を適宜報告していただければと思います。
- 3つ目は、デジタル化についてです。これからの劇場を考えますと、非常に重要なテーマだと認識しております。そのために劇場におけるデジタル化方針のような一定の方向性を示していく必要があると考えております。引き続き幅広い検討を行っていただき、具体的な議論を進めていきたいと思っておりますので、市の方でもご協力よろしくお願いいたします。
- 以上を私からの今日の取りまとめとしたいと思います。委員の皆様よろしいでしょうか。その他、全体を通じて何かご意見、質問等があれば最後にお願いいたします。
- それでは進行を事務局にお戻しいたします。よろしくお願いいたします。

### 【事務局】

- 本日は長時間にわたりまして誠にありがとうございました。次回部会の日程につきましては、今後調整させていただきます。改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。
- 以上をもちまして、新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会を終了いたします。ありがとうございました。